

## 令和6年度第1回逗子市地域福祉推進計画・逗子市地域福祉活動計画懇話会概要

日時 2024年（令和6年）5月27日（月）  
午後2時00分から午後4時00分まで  
場所 市庁舎5階 第2会議室

### 1 議題

- (1) 逗子市地域福祉推進計画・逗子市地域福祉活動計画の進捗状況報告について
- (2) その他

### 2 出席者 21名

（メンバー15名、アドバイザー1名、市職員2名、市社会福祉協議会職員3名）

### 3 傍聴者 なし

### 4 議事概要

- (1) 逗子市地域福祉推進計画・逗子市地域福祉活動計画の進捗状況報告について  
（事務局）

これまでの計画とは違い、総合計画や基幹計画への報告等はないため、改定した計画の進捗状況等についてご意見をいただきたい。また、達成できたか否かという評価はあるが、本懇話会では、達成できていることについては更に推進させるための手法について、達成できていないことについては達成できるようにする手法についてご意見をいただける場としていきたい。本日は本計画の方向性である『「その人らしく生きること」をお互いに支えあう福祉のまち』を具現化する目標として設定された「地域づくり」「人づくり」「仕組みづくり」の各取り組み内容に対し、昨年度の実績と課題分析及び今後のアプローチについて事務局より報告させていただく。

（社会福祉協議会）

評価シートP2～P4の第1節「地域づくり」第1項「地域における支え合いのネットワークをつくりまします」における令和5年度の実績及び課題の分析と今後のアプローチについて、要点を抜粋して説明する。

〔評価指標：地域支え合い活動に参加する母体団体を前年比1団体増やす〕地域支え合い活動の周知として、お互いさま活動パンフレットの刷新（資料1-1）を行い、地域内での回覧や集会等での周知を行った。地域支え合い活動の実施状況について資料1-2を用い説明する。担い手の高齢化という課題はあるが、若年層が参加し、世代交代をしている団体もある。多様な活動団体と協働して賛同者を増やす必要があることから、昨年度は見守り活動団体のヒアリングを行った。見守る対象は様々だが、地域の人を支える視点で各団体と課題

共有・連携が出来ないか模索している。具体的な仕組み・連携方法は検討中だが、各団体の状況把握や可視化を行っていく。

〔評価指標：サロン活動参加者を2030年度に30%増やす〕参加者把握数は「介護予防のための出前講座」の参加人数。サロン団体は主に高齢者が対象。（資料2）

〔評価指標：多世代が参加する地域の居場所を増やす〕R4は単発のイベントとして、住民協や自治会と連携し、多世代交流の場づくりを行った。イベント型は場所によっては継続されている。R5は日頃の繋がりをより意識した形で普段の居場所の開催を行った。住民協、自治会町内会、サロンスタッフの協力を得て、居場所の中で子育て世代と地域活動関係者が繋がる機会となった。同じ地域に住む者同士の場の設定の必要性を感じており、継続的な関わりとなる様、支援をしていく。（資料2）

〔評価指標：目的に応じた交流の場をつくる〕今後の交流の場の充実について、現在、交流の場は様々な形で展開しているが、交流の場がない地域もある。その様な地域に交流の場を検討していく場合、自治会や町内会と意見交換をしながら進めていきたい。

（メンバー意見）

住民協とサロンとの接点がない。住民協は自治会が参加しているため、サロンの課題も自治会が把握でき、地域の課題として取り上げる事ができるが、サロンの方の悩みが出てこない。サロンの方は社協に相談している。社協は住民協や自治会と接点があるが、サロンの悩みを住民協や自治会にフィードバックして頂いていない。自治会は生活の場であり、子供や高齢者の悩みや交流の場はサロンやお互いさまである。出来れば社協からサロンに住民協に参加することを勧めて欲しい。

（メンバー意見）

久木地区住民協は社協と連携が出来ている方。社協は市全体を見ている分、難しい所もあり、各自治会の特性にもよるが、社協も積極的に住民協に入っていければいい。

（メンバー意見）

民生委員として小坪住民協に参加している。小坪のサロンは開催場所であるコミュニティセンターを小坪の住民協から貸して頂いているので、サロンから住民協に活動内容を広報してもらっている。それにより広範囲の周知が出来ている。住民協と連携出来て良かった事例。

（社会福祉協議会）

地域の活動団体と自治会、住民協は関係性深い。社協としても地域の活動団体が抱える課題を共有させて頂く。

（社会福祉協議会）

評価シートP5、P6の第2項「地域活動を支援します」における令和5年度の実績及び課題の分析と今後のアプローチについて、要点を抜粋して説明する。

住民活動のコーディネートについて、地域活動は様々な場面とテーマで取り組みが行われている。地域の生活課題や日常生活の困りごとの解決、地域活動への参加支援に向けて、

各団体の活動把握や個々の活動団体が繋がる協力体制を作っていく。今後は活動団体同士が交流・意見交換が出来るような場を積極的に作っていく。そこから見える生活課題を共有する場も持ちたい。

[評価指標：活動団体同士の交流の場を年1回設ける] サロン団体の交流会をコロナ禍以前は毎年実施していたが、コロナ禍以降は実施しておらず、アンケート調査や団体の一覧作成に留まっていた。今年度は実施していく方向。

[評価指標：小地域(団体)に対して、地域生活課題をテーマにした学習の機会をつくる] 小地域(団体)で主催される集会等を活用して、社協の職員によるミニ出前講座を実施した。内容は団体の要望を聞き、組み立てた。テーマ例：親の介護、独居で倒れた時の対応、傾聴、車いすの操作、ボランティアについて、防災・減災について。昨年は12回実施。(資料3) 様々な研修会の参加者層が固定しているとの課題があるが、各団体からの、こんな学びの場を作りたい等の要望をいただき、開催していきたい。

(メンバー意見)

チラシ配布だけでは、興味がある人しか見ない。チラシだけではなく、直接来て、内容を詳しく説明する等してほしい。むしろ、興味のない人の中に来て、説明してくれれば、興味を持ってくれる人も出てくるかもしれない。

(メンバー意見)

次回のお互いさま会合の場やHP、他に広報は考えているか？中々裾野が広がらない。お互いさまも住民協も大体同じメンバー。若い人を取り込む方法を考えて欲しい。

(メンバー意見)

この様な勉強会が行われていた事を認識していなかった。個人的にはこのチラシの出来は良く、参加したいと思った。ハイランドは高齢者(80代~90代)が多く、若い人が興味を持ちやすいアナウンスが必要。

(社会福祉協議会)

研修会は前もってのお知らせを行うのが今までのやり方だった。昨年度はそれに加え、報告の意味を込めてチラシを作成した。どこまで広がっているのかとの課題は残っていると認識している。若い方への周知を今後も検討していきたい。

(社会福祉協議会)

評価シートP8、P9の第2節「人づくり」第1項「地域の福祉力をアップします」における令和5年度の実績及び課題の分析と今後のアプローチについて、要点を抜粋して説明する。

[評価指標：講座受講者のうち30%がボランティア活動者となる仕組みをつくる] 昨年度は未実施。今年度は担い手育成として、ボランティア入門講座を実施予定。受講後は活動に繋がるようにフォローアップの体制を検討している。

[評価指標：ボランティア活動の周知、担い手研修を年1回以上実施する] 既存のボランティア活動団体の取組周知としては、ボランティア連絡協議会と連携をしながら活動を体験

する機会などをイベントの中で意識しながら行った。今後は更に既存の活動団体の周知にも力を入れたい。ボランティアセンターに登録しているボランティア団体数は 35 団体で、その団体を紹介する冊子を現在、作成中。ボランティア活動の周知を様々な方法で考えていきたい。昨年、社協のインスタグラムを始めた。今まではイベント周知においてインスタグラムに掲載していたが、今後はボランティア活動の周知にも活用していきたい。

[評価指標：公立小中学校における福祉教育授業を地域住民（ボランティア、障がいの当事者等）と共に実施する] 小中学校で福祉の授業で行っているプログラム例（資料4）で、各団体、ボランティア、当事者、専門職等が協力している。教育委員会、社協、専門職、当事者等で学校実践プロジェクトを設立し、福祉の授業プログラムについて検討・実践している。

[評価指標：地域課題に即した福祉教育について地域住民等との協働実践を年3回実施する] 地域住民向けの福祉の啓発で、20年地域住民と一緒に作り上げてきた研修会の報告（資料6）や、有志が絵本というツールと使い広く福祉の啓発を行った。（資料5-1、5-2）

（メンバー意見）

我々もこういう企画をやってほしいとの提案をしていきたい。どちらに相談すればいいか。

（社会福祉協議会）

内容によっては振り分けをする場合もあるが、社協に相談して欲しい。

（メンバー意見）

地域と一緒に教育に取り組むという考えがある。福祉体験は子供が小さい頃に体験すると、大人になった時に花を咲かせやすい。大人になり地域の事を考える視点が育つ。小学校の低学年に向けて、継続的に福祉体験を実施して欲しい。

（メンバー意見）

車椅子の会をしている。今でもプログラムに取り組まれていると思うが、是非、継続的に取り組んでいただきたい。福祉教育を学校だけではなく、地域で担っていく姿勢があれば、福祉教育はより進むと思う。

（メンバー意見）

母親の参加が少なくなっている。子供達が大人になる前に、今の母親世代が高齢者になる頃に、ボランティアが消滅しているのではないかと危機感を感じている。子供会に入会しても、役員をやりたくないため、高学年になると退会してしまう。育児サークル連絡協議会も加入団体数が減っている。学校のPTAも保護者が学級委員をやりたくないとして、負担軽減のための工夫を凝らしている。ベルマークも集まらずに個人で作業して提出する方式となった。小学生の参加も勿論大事だが、親世代にいかに参加してもらえるか、やる気のない人にいかに興味を持ってもらえるかが大事。その仕組みを考え付けなければならない。

（メンバー意見）

自治会も同じ。責任を負いたくない人がいる。

（メンバー意見）

子供会もどんどんなくなっている。

(メンバー意見)

池子も少なくなったが、少人数ながらもやってくれる人が残ってやっている。結局は人との繋がり。義理でも繋がりでも参加してくれると、活動が楽しくなってくる。コミュニケーションが大事。社協にだけ任せるのは違う。

(社会福祉協議会)

様々な団体が抱える課題がある中で、連携できればと思う。担い手不足の課題がある中、逗子では市民活動団体の中で若い方の参加もあるとの声も聞いている。若い方がいないわけでも活動しないわけでもないと認識している。ただ、地域福祉活動に賛同いただいているかということ、まだまだの部分がある。様々な課題がある中、最終的には繋がりや顔の見える関係に帰結すると思う。地域で近隣同士の繋がりが第一歩。そこから様々な処に広がっていく様に、皆様と連携をとっていきたい。課題共有、意見交換させて頂き、共に作っていききたいと思う。

(事務局)

評価シート P11、P12 の第3節「仕組みづくり」第1項「専門機関等との連携により支援へつながる仕組みをつくりまします」における令和5年度の実績及び課題の分析と今後のアプローチについて、要点を抜粋して説明する。

[評価指標：成年後見制度の利用促進を図るため、制度周知の講座新規受講者を年50名以上に目指す] 昨年度、市民対象講座は実施できず。今後、周知や制度の説明会等に職員が参加し、講座の実施を行いたい。逗子あんしんセンターへ補助金を支出しており、一定の制度運用は行っている。成年後見制度の認知度が低い実態から講座開講や制度周知を行っていききたい。

[評価指標：市、包括が実施する認知症サポーターを年200名以上増やす] 昨年度は計176名のサポーターを養成した。令和6年1月1日に認知症基本法が施行され、認知症への正しい理解が国民の義務となった。認知症サポーター等の制度を活用し、市民の皆様へ認知症への正しい理解を進めていきたい。

[評価指標：認知症の理解と予防を目的として市・包括支援センター等での相談を受け付けていく] 市で月1回認知症初期の方の相談を受ける「もの忘れ相談」があり、昨年は8件。包括では昨年600件弱の認知症相談を受けており、多くの相談があると認識している。就労されている方からの相談が受け難いとの声があるため、夜間や土曜の相談も受けられる体制を今年度より進めている。

[評価指標：孤独・孤立における課題を身近に感じてもらうための講座等を開催し、新規受講者数を年50名以上に目指す] 昨年度は社協に委託している地域福祉推進事業等により現状における課題抽出、解決に向けた担い手育成を行った。今年は孤立・孤独対策推進法が施行されたこともあり、特に注力して実施していきたい。逗子市の人口規模から18歳～64歳までの引きこもり人口が約600人程度と言われている。学齢期からの引きこもりだけでな

く、就労での心身不調や介護離職を契機とした引きこもりの方も一定数いることから、引きこもり、孤立・孤独は誰もが直面する可能性のある課題と認識し、市として早めの相談が出来る体制の周知を行っていききたい。

〔評価指標：市・社協・地域包括等関係機関が一体となって生活困窮者に対する包括的相談支援を実施する〕生活困窮相談はコロナ禍より減少しているが、深刻な相談が多く、市・社協・包括等が一体となって相談を受けている。早めの対応が必要だが、相談に繋がらない場合もあるため、相談支援機関から出向くアウトリーチで、信頼関係を築きながら相談を受けていく支援体制を行っている。

〔評価指標：地域包括支援センターが担当した相談支援のうち、他機関が協働した件数が合計 120 件となっている〕包括の相談は介護や高齢の相談が多いが、令和 3 年度からは複合的な課題に対する相談も受けている。この様な相談が円滑に行えるよう、多機関協働を 120 件と目標にしている、昨年度は 23 件。今後益々増えていく事が予想され、昨年度は勉強会を 3 回実施した。

(メンバー意見)

現状は西部地域包括支援センターが欠員状態。お互い様から包括に情報は与えているが、包括からお互い様に個人情報を理由に情報が提供されない。要支援者・要介護者に地域の住民が真剣に一步踏み込むには、個人情報提供に関する整理が必要。個人情報提供についてのスタンダードを行政で考えてほしい。個人情報の壁の一番の被害者は要支援者。逗子市は超高齢者社会。ある教授が言うには、介護は投資段階。行政として政治的なプロセスを未来に向かって考えないと立ちいかない。行政は大きなバックボーンを打ち出して、支援者がそれに沿っていく方向としてほしい。

(事務局)

支援者への個人情報については課題として共有。西部包括の欠員も検討している。介護人材不足も奨励金を出しているが、中々増えない。別の良い方法等あればご指摘願いたい。

(メンバー意見)

成年後見制度について、父が実際に対象となった経験から一言。成年後見制度は本人の判断能力がなくなってからでは使えない。その前に対応が必要。制度自体を知らない人が多い中、周知方法をよく考えて欲しい

(メンバー意見)

高齢者の見守り対象者に後見人がついてしたが、その情報がなかった為、支援者内で混乱した案件があった。外出中に転倒し、近所の方が自宅に送った処、後見人がいる事が判明した為、後は後見人に任せるとしたが、自宅で食事もせず 2~3 日寝たきりになり、結局は施設に入所した。後見人は判断能力がある内に決めないといけないと難しい。

(メンバー意見)

その後見人の件も個人情報の壁が問題となっている。

(メンバー意見)

一人暮らし登録時に家族の連絡先を聞いている。家族でないと担えない部分もある。

(メンバー意見)

支援したその方は、前年に夫も娘も逝去しており、他の家族の情報も聞き出せなかった。別の方で、昨年夫が逝去し、徐々に自宅からでなくなり、認知も出てきた。包括と一緒に自治会でフォローしていく事になったが、自治会でどこまでできるか分からない。

(事務局)

後見人の個人情報も含めて、どういった内容を共有できるか検討したい。成年後見人制度の類型は他に補助・保佐がある。成年後見人制度の情報を市民の皆様に共有できるようにしていきたい。

(メンバー意見)

成年後見制度等の福祉の情報を、勉強会ではなく、毎月の広報に出してほしい。

(事務局)

広報も市として掲載したい記事は福祉に限らず沢山あるため、交渉の必要がある。他にも市のホームページであれば、毎回閲覧できる状況はある。皆さんに目につくように、何らかの対応を検討したい。

(メンバー意見)

市のホームページは自分で見に行かなくてはいけないので、必要な情報に行きつけない。

(社会福祉協議会)

成年後見制度は大きく分けて、任意後見制度と法定後見制度の二つがある。メンバーからご意見のあった判断能力がある内に契約する後見人というのは、任意後見制度の事と思われる。任意後見制度は判断能力のある内に、自分で後見人を選ぶ制度であるが、法定後見制度は判断能力が低下若しくは著しく低下している中、家庭裁判所の審判により後見人を選任する制度である。判断能力が著しく低下した方は、法定後見制度が利用できる。成年後見制度はこの様に細かい制度でもあるため、地域の勉強会に社協を呼ぶ等、活用頂きたい。

(メンバー意見)

勉強会ではなく、そのインフォメーションを毎月行って欲しい。制度の入り口だけでも、情報を流してほしい。

(メンバー意見)

認知症サポーターを 200 名以上養成とある。自分も受講したが、その後のフォローがない。僅かな話と紙を配布するだけではなく、その後のフォローをしてほしい。

(事務局)

受講者へのその後のフォローとして、フォローアップ研修を実施している。より間口を広げたいとの意図で 200 名以上のサポーター養成を示している。

(メンバー意見)

P 1 2 の下段、「包括が担当した相談支援のうち、多機関協働が 120 件」と記載してあり、隣の欄には 23 件とある。120 件のうち、23 件との意味なのか。「なお、円滑な連携が図れ

るよう」とあるが、円滑ではなかったのか。

(事務局)

多機関協働の目標値が120件で、昨年度の実績が23件との意味。更に円滑にという意味で記載した。円滑な連携にゴールがあるわけではないので、毎回毎回ステップアップしながら連携していくとの意図がある。

(事務局)

本日頂いた貴重な意見は業務に活用していきたい。最後にアドバイザーより総括をお願いしたい。

(アドバイザー)

日常の疑問や上手くいっていない部分の具体的な内容が出ているのが良い。皆で共有し、フィードバックすることが重要。懇話会の報告は定量で出される事が多いが、それによってどういう内容が蓄積されたか、皆がどういう事を感じ、どういう影響や効果があったかが分かるという。定量的部分だけではなく、定性的部分を共有していく必要あり。

人づくりで福祉だけでなく、他分野の連携も重要。逗子市は色々な事をやっている。その中には直接福祉に関する事でなくても、福祉的要素が含まれているものもある。こちらから働きかけるのは難しい部分もあるかもしれないが、例えば、問題や地域課題、課題と呼べるものではないが地域を盛り上げていく時に、その様な団体と連携や協働等、一緒に動く機会を今後も持ってほしい。

後見制度や多職種連携の話等、法律・制度も変わり、色々なことが動いている。全てを報告するわけではないが、皆さんの活動の中で、必要な事や知っておいた方が良い情報は公開されるべきであるし、皆さんの分からない事も聞ける関係性や環境があると良い。

仕組みづくりも行政のスピードが速いので理解を頂けていない部分もある。他分野と連携していく事業も増えている。他分野連携の具体例を共有していくと良い。他の会議に参加していても、福祉と直接関係ない分野でも連携していくと良いと思える活動がある。市民の方は他分野連携を既に行っている。福祉に限定することなく、広がりとしてどの様な分野と連携している等の話が出来ると、今後、様々な問題が出てきた場合、問題の解決だけでなく、豊かな生活をしていく為にも、そういった広がりが持てる地域活動が出来ると良い。

(事務局)

以上をもって、本懇話会は終了とする。例年、本懇話会は年度末に開催していたが、次回も今回と同様に取り組みに対して意見を聴取し、施策に活かしたいと考えている。出来れば、年度途中に開催し、進捗状況について説明の上、年度後半や翌年度に向けて事業の組み立ての参考とさせて頂きたい。日程については、後日、調整させて頂く。